

## 急傾斜地崩壊対策事業事前評価調書

路線・河川等名		にしきさとり 西笠取	事業名	急傾斜地崩壊対策事業	補助・単独の別	補助
事業主体		京都府	事業箇所(区間)	にしきさとり 宇治市西笠取		
事業概要	目的	当該箇所は、保全対象として人家5戸、要配慮者利用施設(宇治福祉園)、避難路(市道滝ヶ谷森線)が存在し、平成24年8月の京都府南部豪雨により斜面が崩落するなど危険な急傾斜地である。今後の大雨によりがけ崩れの発生が懸念されるとともに、避難路である市道滝ヶ谷森線は、被害想定区域内に位置しており、集落が孤立する恐れもあるため、急傾斜地崩壊対策工事により土砂災害から人命を保護し地域の安全を確保する。				
	内容	施工延長 200m (擁壁工、法面工) 全体事業費 2億円				
	上位計画等	明日の京都 [府民安心の再構築(暮らしの安心)] 社会資本総合整備計画(防災・安全交付金)				
	スケジュール	着手年度 平成27年度 完成目標年度 平成31年度				
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	○土砂災害の被害想定区域内に人家、要配慮者利用施設(宇治福祉園)、避難路(市道滝ヶ谷森線)が存在し、がけ崩れが発生した場合、地域住民に与える影響は大きい。 ○特に、市道滝ヶ谷森線は、土砂災害発生時における集落の孤立を防ぐ重要な避難路となっており保全が必要である。				
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	○がけ崩れから人命が保護され、避難路(市道滝ヶ谷森線)が保全される事業であり、投資効果は大きい。(B/C=1.9)				
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	○現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで他工事を含めた総事業費のコスト縮減を図る。 ○大規模な切土や地形の改変は最小限とするよう、擁壁の構造や落石防護柵の施設計画を検討し、自然環境保全に努める。				
総合評価		本事業は、土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から、新規事業着手の必要がある。				

にしかさとり  
**西笠取地区 急傾斜地崩壊対策事業**  
 きょうとふ うじし にしかさとり  
 京都府 宇治市 西笠取

○事業目的

当該箇所は、京都府南部の宇治市に位置し、保全対象として人家5戸、要配慮者利用施設（宇治福祉園）、市道を含む急傾斜地である。

平成24年8月の京都府南部豪雨により斜面崩壊が発生し、小屋が全壊する被害を受けた。また、避難路である市道滝ヶ谷森線は被害想定区域内に位置しており、今後の大雨によりがけ崩れが発生すると集落が孤立する恐れもあるため、早急に対策を行う必要がある。



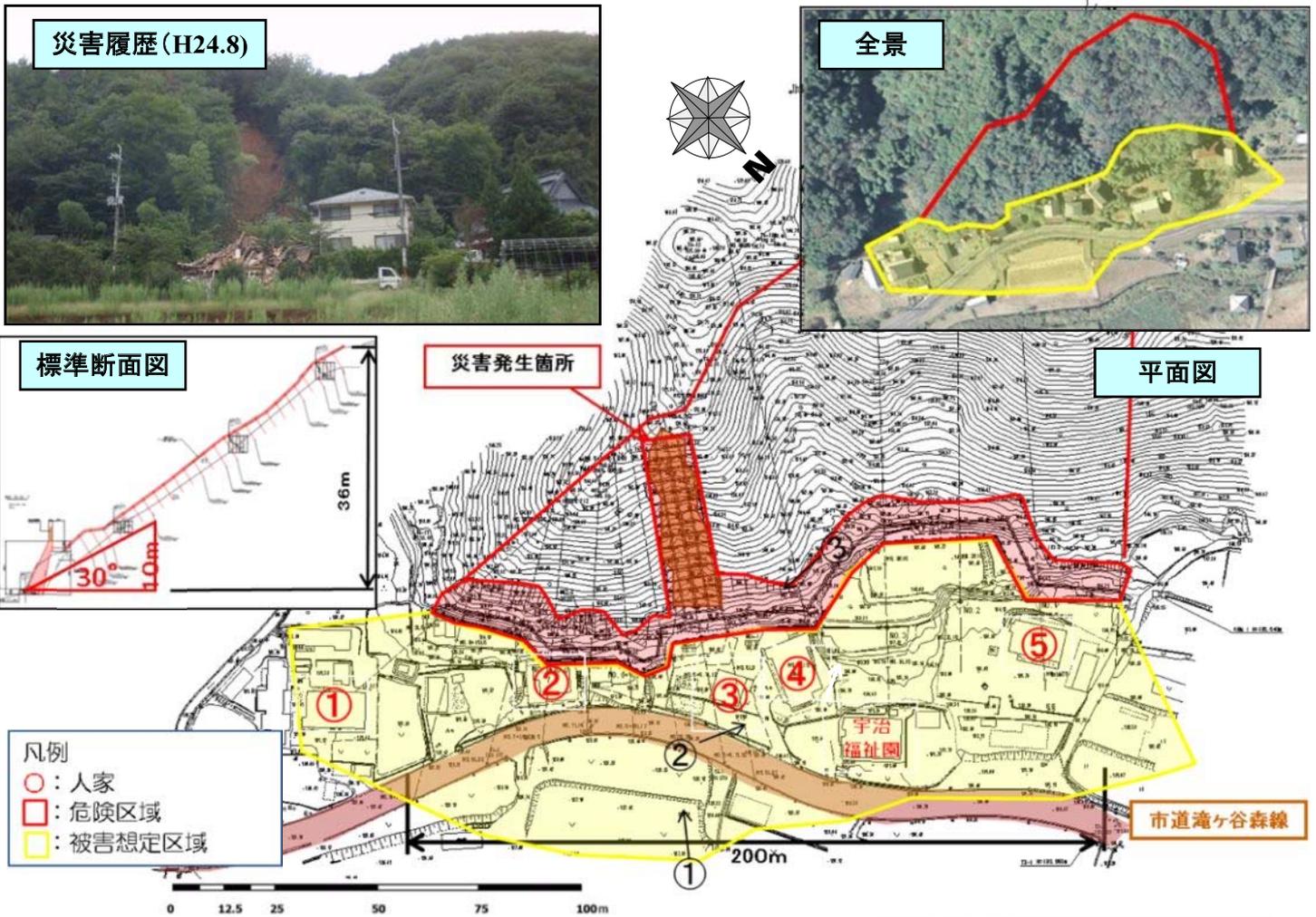
○箇所概要

事業年度 : H27~H31

全体事業費 : 200百万円 (B/C=1.87) H27事業費 : 36百万円

保全対象 : 人家5戸、宇治福祉園（要配慮者利用施設）、市道(避難路) 205m

実施内容 : 擁壁工、法面工 H27: 用地買収、擁壁工、法面工



『<sup>わ</sup>環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成27年3月24日		
		作成部署	建設交通部砂防課		
事業名	西笠取地区 急傾斜地崩壊対策事業	地区名	宇治市西笠取		
概算事業費	2億円	事業期間	平成27年度～平成31年度		
事業概要	擁壁工、法面工				
目指すべき環境像	西笠取地区は、宇治市の山間部に位置する自然環境豊かな集落であり、事業実施に当たっては、自然環境に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。 また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。				
関連する公共事業	なし				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
主要な評価の視点	選定要否				
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	当該箇所は平成24年8月の豪雨により斜面が崩壊している。また、周辺にも崩壊が懸念される斜面が連続する。このため、斜面崩壊防止工事を実施し、山地斜面を含む現地形と植生を保全する必要がある。	斜面崩壊を防止し、土砂移動の抑止を図るとともに、周辺の自然環境を保全する。施工にあたっては、土砂災害を防止する目的に沿い、極力大きな地形の改変を行わないよう配慮し、地質に応じた工法を検討する。		
	地形・地質			○	3
	物質循環(土砂移動)			○	4
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系			○	3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	当該箇所は、斜面崩壊防止工事が必要な斜面と保全人家が近接しているため、施工時における騒音・振動に留意する必要がある。また、土砂掘削時・斜面削孔時における粉じん等の処置が必要である。さらに、工事による建設発生土を極力リサイクル必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 粉じん対策として、散水する・防塵シートを配置する等、日常の生活に支障が無いよう配慮する。 また、他工事との工程調整により建設発生土の再利用に努める。		
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	3
	化学物質・粉じん等			○	3
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	当該箇所は、山間部に位置し、豊かな自然環境に恵まれた地域であり、景観に配慮する必要がある。また、本事業は人家裏の狭小部で実施する工事であるため、住民との協働が不可欠である。	地山の改変を極力減じる工法を検討し、緑化工には郷土種を混合するなど、環境に配慮すると共に速やかな植生回復を図り、景観への影響を少なくする。 また、地域住民には本事業の進め方、内容、時期など、十分説明し協力を求めるものとする。	3	
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働			○	4
	その他				
外部評価					

(別紙)

## 構想ガイドラインチェックリストの記載要領

- 1) 「施工地の環境特性と目標」欄：評価項目の「主要な評価の視点選定の考え方」に当てはまる項目について、下記の記載要点を踏まえて施工地地の環境特性と目指すべき方向（環境目標）についての点検を行い、できるだけ具体的に（例えば絶滅危惧種の名称等）記載すること。
- 2) 「環境配慮・環境創造のための措置内容」欄：「施工地の環境特性と目標」の記載内容に対応して実施しようとする回避措置や自然再生・環境創出等の方策について記載すること。
- 3) 「環境評価」欄：評価項目ごとの環境配慮の自己評価を記載する。  
(改善；5、やや改善；4、現状維持；3、やや悪化；2、悪化；1)

評価項目	主要な評価の視点	「施工地の環境特性と目標」の記載要点
	地球環境・自然環境	地球温暖化 (CO <sub>2</sub> 排出量等) 地形・地質 物質循環 (土砂移動等) 野生生物 ・絶滅危惧種 生態系 その他
生活環境	ユニバーサルデザイン 水環境・水循環 大気環境 土壌・地盤環境 騒音・振動 廃棄物・リサイクル 化学物質・粉じん 電磁波・電波環境・日照 その他	・高齢者や障がい者など社会的弱者に配慮した施設構造としていくことが必要。 ・事業前の水環境・水循環が良（又は不良）であるため、その維持（又は改善）が必要。 ・事業前の大気環境が良（又は不良）であるため、その維持（又は改善）が必要。 ・事業前の土壌・地盤環境が良（又は不良～汚染、沈下、水脈分断など）のため、その維持（又は改善）が必要。 ・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、騒音・振動の発生が予測されるため、発生抑制が必要。 ・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、建設廃棄物の大量発生が予測されるため、発生抑制、再使用、リサイクルなどが必要。 ・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、化学物質や粉じんによる汚染が予測されるため、汚染の防止・抑制が必要。 ・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、電磁波、電波障害、日照障害が予測されるため、障害の防止・抑制が必要。 ・その他、施工地及び周辺地域における生活環境の特性と目指すべき方向（環境目標）
地域個性・文化環境	景観 地域の文化資産 里山の保全 伝統的行祭事 地域住民との協働 その他	・京都らしい自然景観や歴史的景観、都市景観が存在するため、その維持・保全・改善・回復などが必要。 ・史跡や天然記念物、歴史的に重要な遺跡、古道、伝承、家屋(群)など地域固有の文化資産が存在するため、その維持・保全・改善・回復などが必要。 ・多様な生物相や農村景観の重要な要素となっている里山が存在しているため、その維持・保全・改善・回復などが必要。 ・地域の伝統的な行祭事等が行われているため、その維持・保全・改善・回復などが必要。 ・事業の構想、設計、施工、管理などについて地域住民との協働が必要。 ・その他、施工地及び周辺地域における地域個性や文化環境の特性と目指すべき方向（環境目標）。